

若年層におけるデートDVに関する意識調査

報告書

(高等学校・特別支援学校・高等専門学校)

令和8年3月

広島県健康福祉局こども家庭課



DV防止シンボルマーク

目 次

I	調査の概要	3
1	調査目的	3
2	調査項目及び調査対象	3
3	調査時期	3
4	調査方法	3
5	調査実施委託機関	3
6	回収結果	3
II	調査結果の概要	4
1	デートDVについての認知	4
2	交際相手からの行為についての暴力としての認識	6
3	男女の役割に対する意識	12
4	デートDVについての予防教育の実施状況	16
5	予防教育実施状況別のデートDVについての認知	17
6	デートDV予防教育の実施方法・実施内容	20
7	デートDVの予防に関して実施している取組	22
8	デートDV予防教育を行うために必要な支援	23
9	デートDV予防教育を受ける時期	24
III	調査票	25
	デートDVについての意識調査	25
	デートDV予防教育に関する調査	27

I 調査の概要

1 調査目的

若年層におけるデートDVに関する意識を把握し、今後のDV対策の推進のための基礎資料とする。

2 調査項目及び調査対象

調査項目	調査対象
(1) デートDVについての認知	県内の高等学校（公立高等学校の定時制・通信制含む）・特別支援学校高等部及び高等専門学校(142校)の2年生の男女
(2) 交際相手からの行為についての暴力としての認識	
(3) 男女の役割に対する意識	
(4) デートDV予防教育の実施状況別認知度	各学校の養護教諭等担当教諭
(5) デートDV予防教育についての学校の状況	

3 調査時期

令和7年11月5日～12月19日（平成28年11月、平成29年11月、平成30年11月、令和元年11月、令和2年12月、令和3年12月、令和4年12月、令和5年12月、令和6年12月の調査に続いて10回目）

4 調査方法

Web調査法（県内の対象高校等にQRコードを配付し、アンケートサイトにて回答を得た）
令和元年までは、郵送調査法（県内の対象高校等に調査票を郵送し、学校単位で郵送にて回収した）

5 調査実施委託機関

一般社団法人広島テレワーク協会

6 回収結果

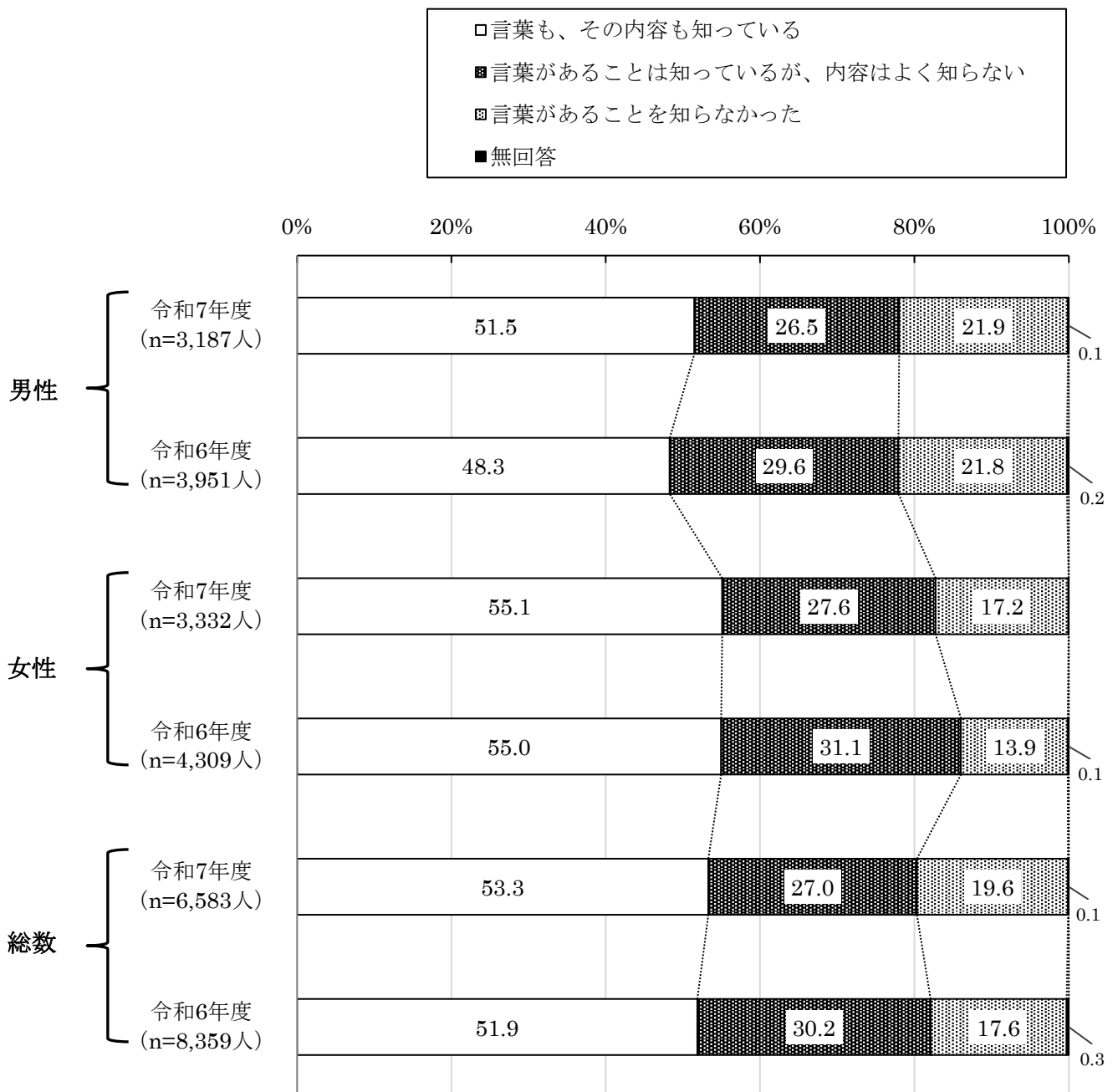
対象者数	有効回収数			有効回収率
	6,583人			
21,088人	女性	男性	不明	31.2%
	3,332人 50.6%	3,187人 48.4%	64人 1.0%	

II 調査結果の概要

1 デートDVについての認知

問2 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について、知っていますか。

図1 「デートDV」（交際相手からの暴力）の認知度



「デートDV」について知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」という人は53.3%である。

一方、「言葉があることを知らなかった」という人は19.6%で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(27.0%)と合わせると46.6%（前回調査：47.8%）であり、約5割の人に十分な認知がされていない。

男女別にみると、男性では、「言葉も、その内容も知っている」という人は51.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(26.5%)、「言葉があることを知らなかった」(21.9%)である。女性では、「言葉も、その内容も知っている」という人は55.1%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(27.6%)、「言葉があることを知らなかった」(17.2%)となっており、男性のほうが女性よりも認知度が低くなっている。

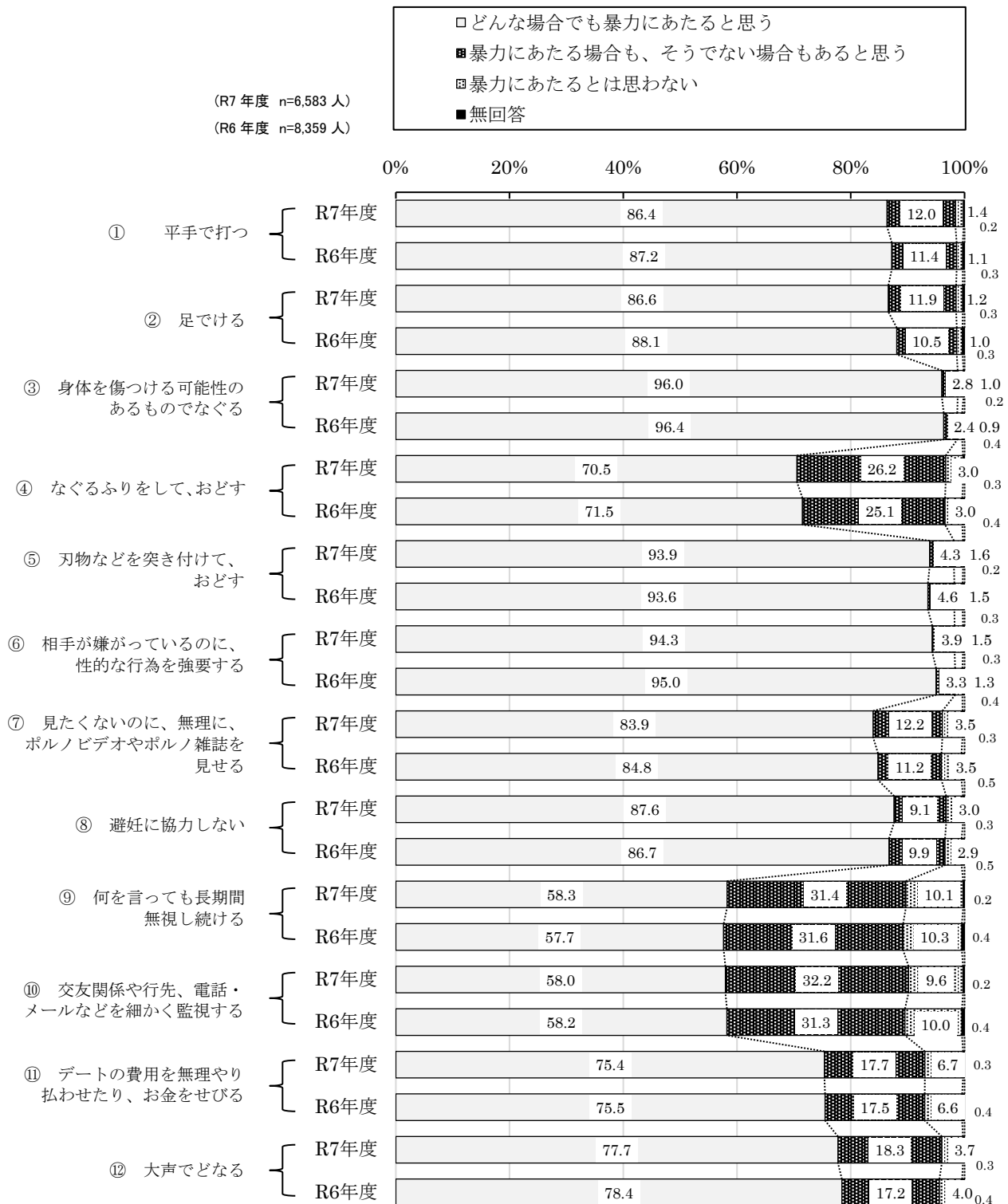
前回調査(令和6年度)と比較すると、「言葉も、その内容も知っている」は前回調査51.9%であったのに対し、今回調査は53.3%で1.4ポイント増加している。「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は前回調査30.2%であったのに対し、今回調査は27.0%で3.2ポイント減少している。「言葉があることを知らなかった」という人は前回調査17.6%であったのに対し、今回調査は19.6%で2.0ポイント増加している。

男女ともに「言葉があることを知らなかった」「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」という人を合わせると約5割で、いまだ十分な認知がされていないことがうかがえる(図1)

2 交際相手からの行為についての暴力としての認識

問3 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んでください。

図2-1 交際相手からの行為について暴力としての認識



12項目の行為をあげて、それが交際相手から行われた場合に『暴力にあたると思うか』の意識を聞いた。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」(96.0%)、「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」(94.3%)、「刃物などを突き付けて、おどす」(93.9%)で、9割以上の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識している。

また、「避妊に協力しない」(87.6%)、「足でける」(86.6%)、「平手で打つ」(86.4%)、「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(83.9%)は8割以上の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」(58.0%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(58.3%)は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人は6割に満たない。

前回調査と比較すると、12項目中3項目（「刃物などを突き付けて、おどす」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」）で認知度が高くなっている。(図2-1)

※交際相手からの12項目の行為について、以下のように分類する。

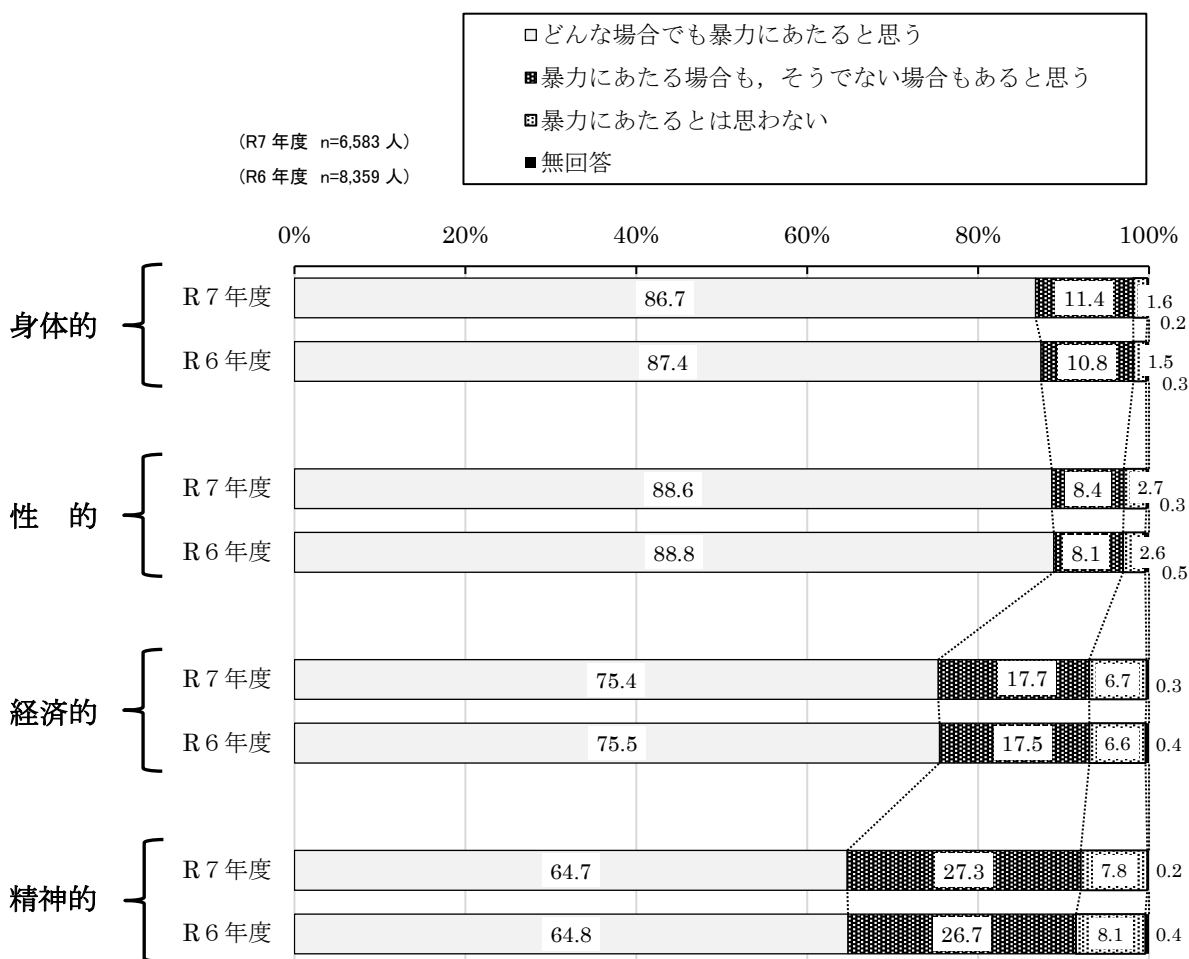
【身体的】項目：「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「なぐるふりをして、おどす」「刃物などを突き付けて、おどす」

【性的】項目：「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」

【経済的】項目：「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」

【精神的】項目：「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「大声でどなる」

図2-2 交際相手からの行為について暴力としての認識【分類別】



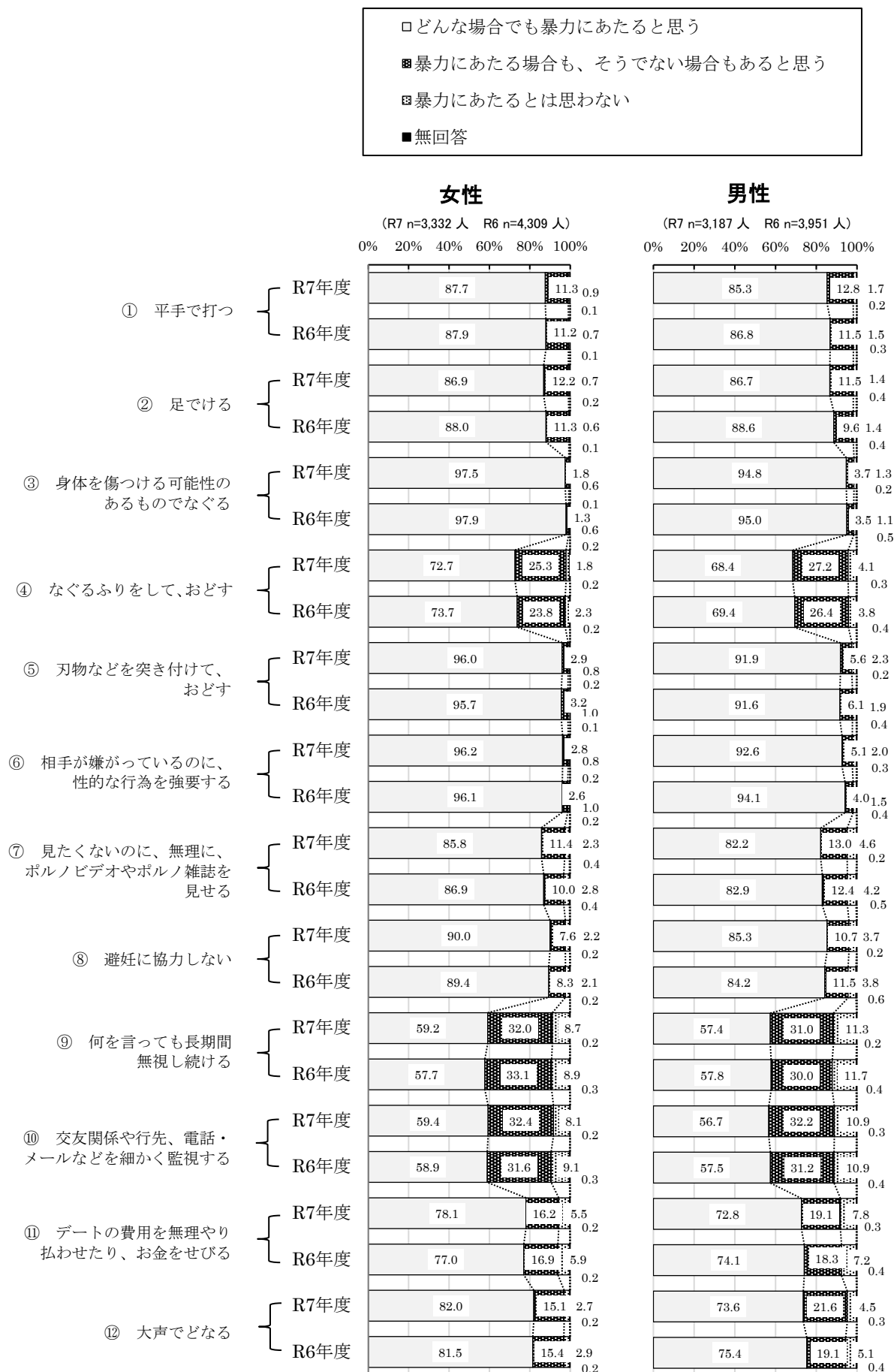
12項目の行為をあげて、それが交際相手から行われた場合に『暴力にあたると思うか』の意識を聞いた結果（図2-1）を、身体的項目、性的項目、経済的項目、精神的項目に分類した。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、「性的項目」（88.6%）、「身体的項目」（86.7%）で、8割以上の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

「経済的項目」は75.4%の人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「精神的項目」（64.7%）は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人は7割に満たない。（図2-2）

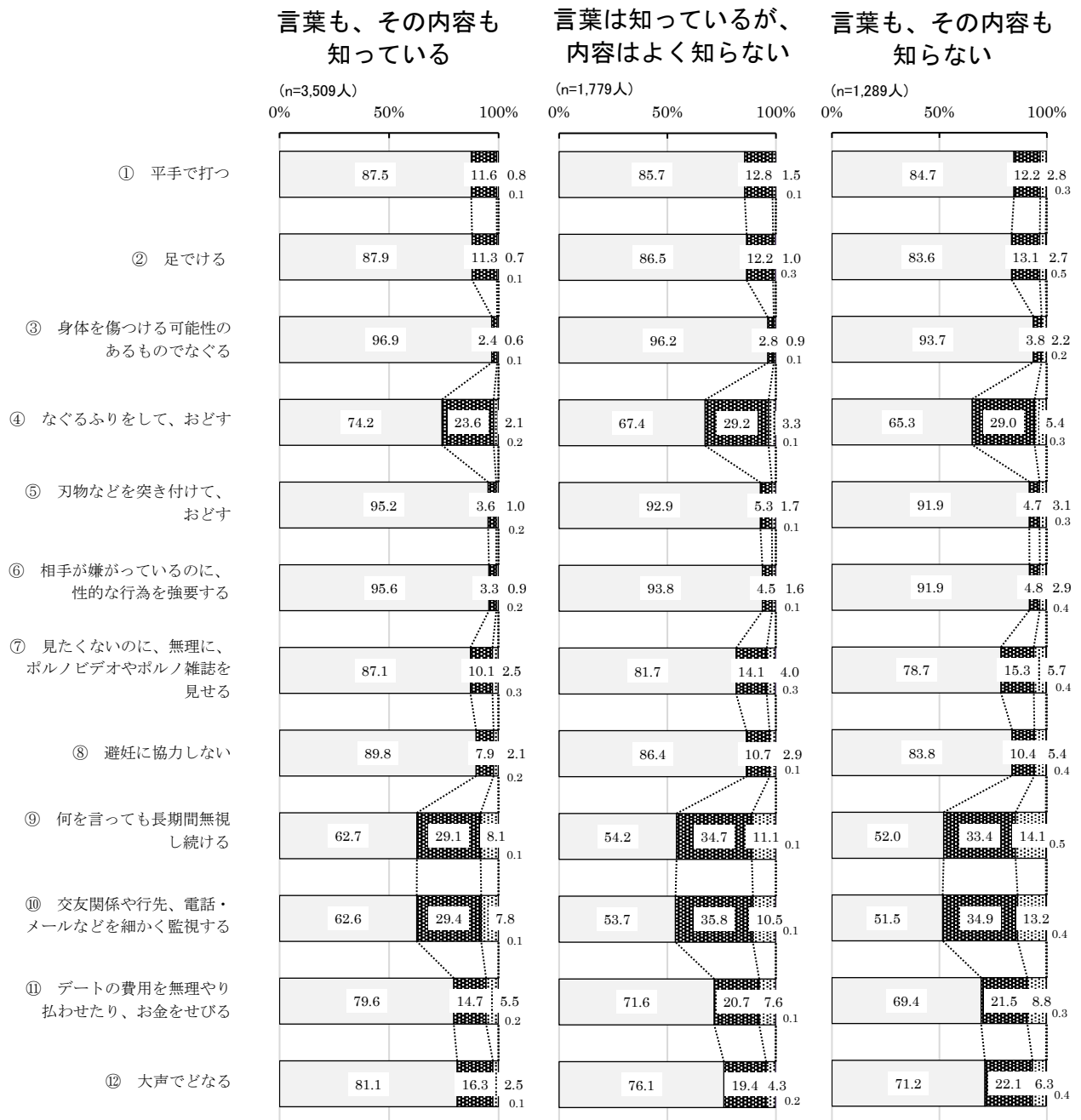
図2-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識【男女別】



男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に大きな差はみられないが、12項目中全項目で、女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高くなっている。(図2-3)

図2-4 交際相手からの行為についての暴力としての認識
 「デートDV」(交際相手からの暴力)の認知度別

□どんな場合でも暴力にあたると思う
 ■暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
 ▨暴力にあたるとは思わない
 ■無回答

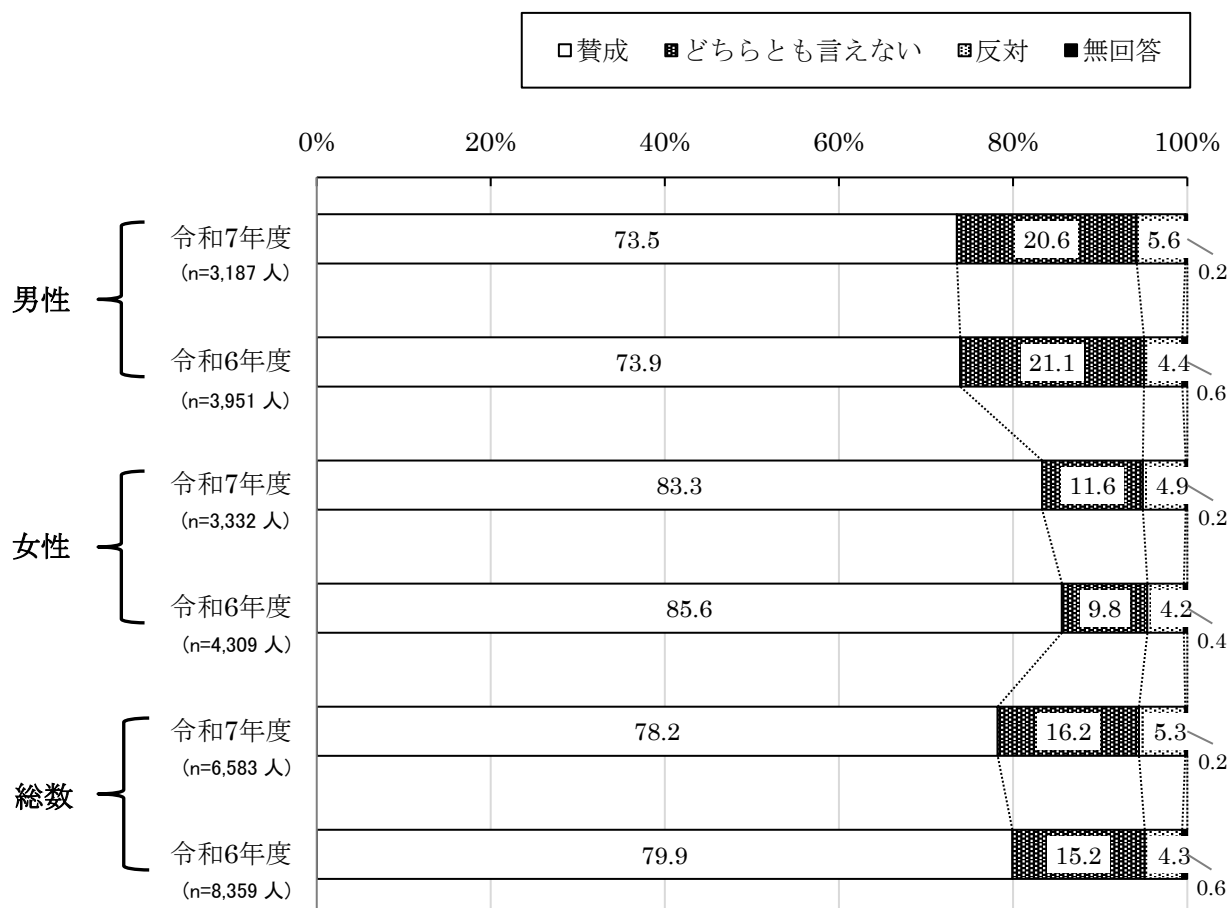


交際相手からの行為についての暴力としての認識を、問3「デートDV」(交際相手からの暴力)についての認知度別にみると、「言葉も、その内容も知っている」人は、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」人、「言葉も、その内容も知らない」人に比べ、12項目中全項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。(図2-4)

3 男女の役割に対する意識

問4 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

図3-1 男女の役割に対する意識

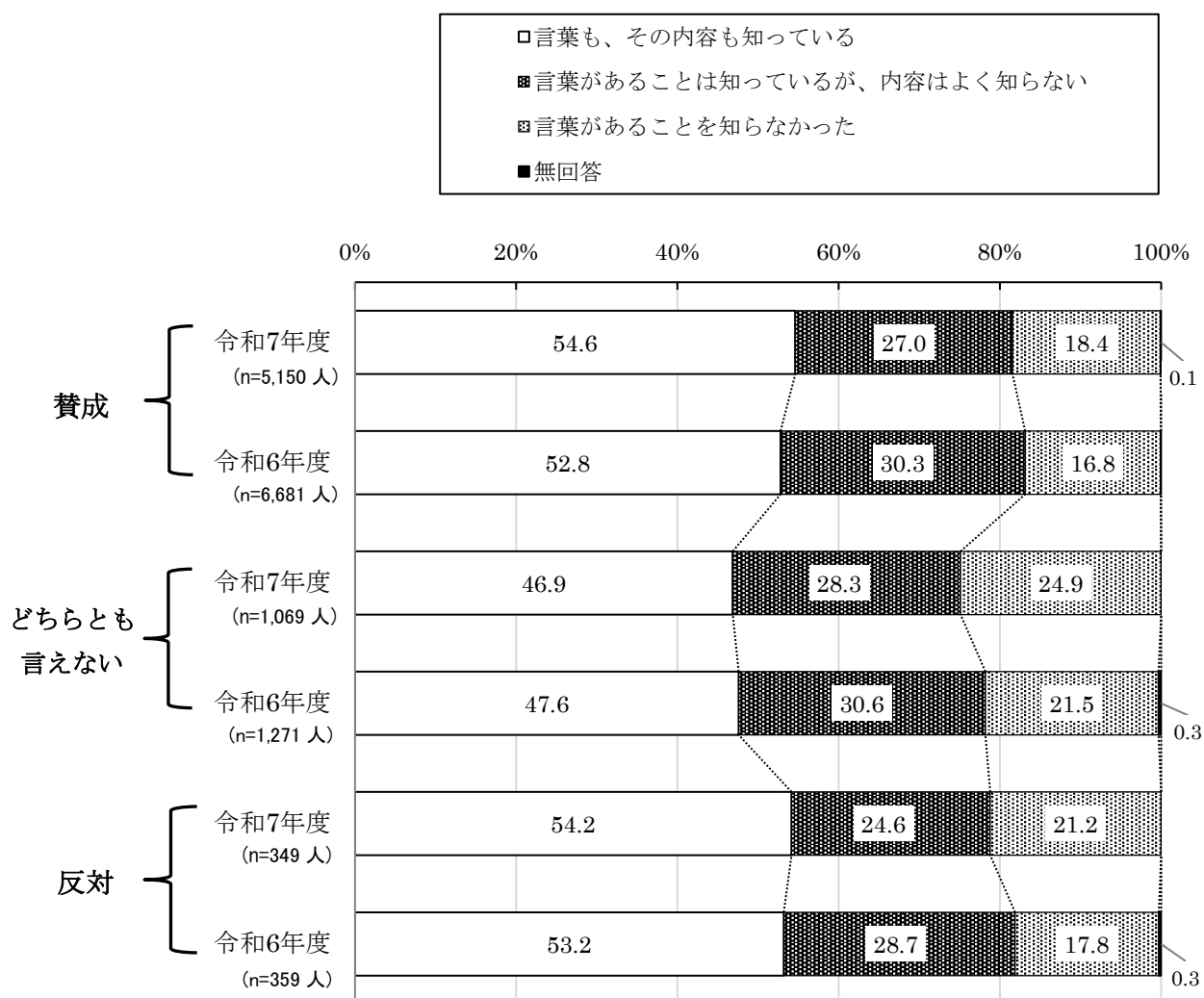


「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方についてどう思うか聞いたところ、総数では78.2%が「賛成」と答えた。「どちらとも言えない」が16.2%、「反対」が5.3%であった。

男女別にみると、男性は「賛成」が73.5%、「どちらとも言えない」が20.6%、「反対」が5.6%であった。女性は、「賛成」が83.3%、「どちらとも言えない」が11.6%、「反対」が4.9%であった。

前回調査（令和6年度）と比較すると、「賛成」が前回調査79.9%であったのに対し、今回調査は78.2%で1.7ポイント減少している。「どちらとも言えない」は前回調査15.2%であったのに対し、今回調査は16.2%で1.0ポイント増加している。「反対」は前回調査4.3%であったのに対し、今回調査は5.3%で1.0ポイント増加している。（図3-1）

図3-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
[男女の役割に対する意識別]



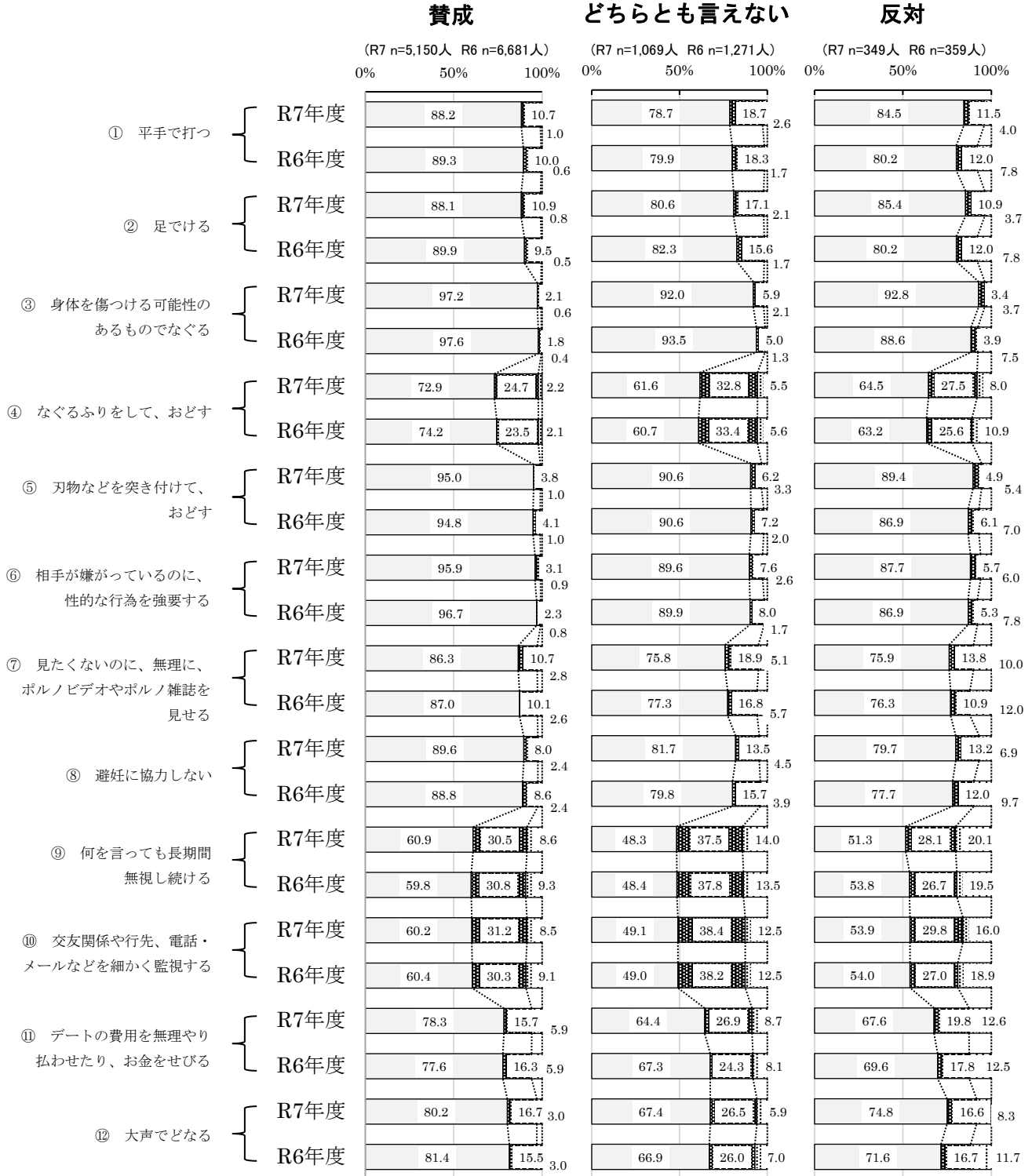
男女の役割に対する意識別にデートDVの認知度を比較した。「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」が54.6%、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」(27.0%)、「言葉も、その内容も知らない」(18.4%)である。

男女の役割に対する意識に「どちらとも言えない」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」(46.9%)、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」(28.3%)、「言葉も、その内容も知らない」(24.9%)である。

男女の役割に対する意識で「反対」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」(54.2%)、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」(24.6%)、「言葉も、その内容も知らない」(21.2%)である。(図3-2)

図3-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識
[男女の役割に対する意識別]

□どんな場合でも暴力にあたると思う
■暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
▨暴力にあたるとは思わない

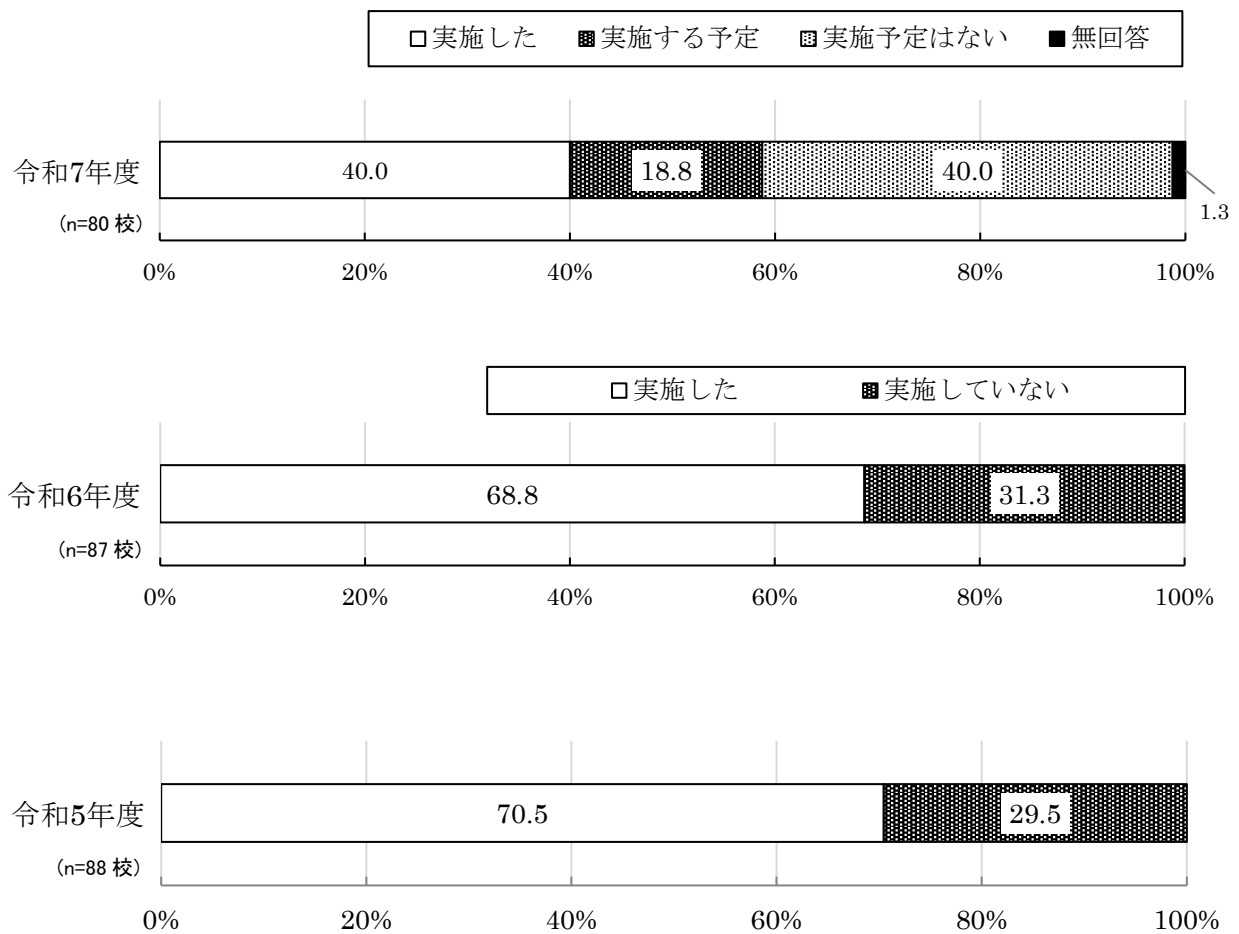


男女の役割に対する意識別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識をみると、「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「どちらとも言えない」「反対」と答えた人に比べ、12項目中の全項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。(図3-3)

4 デートDVについての予防教育の実施状況

問1 デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等（非行防止教室等の生徒指導に関する講演会、命の大切さや良好な人間関係などに関する講演会等、デートDVが直接的なテーマではなかった場合を含む。）を実施したことがありますか。

図4-1 デートDVについての予防教育の実施状況



デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等を実施したことがあるかどうか聞いたところ、令和7年度は「実施した」(40.0%)、「実施する予定」(18.8%)、「実施予定はない」(40.0%)であった。

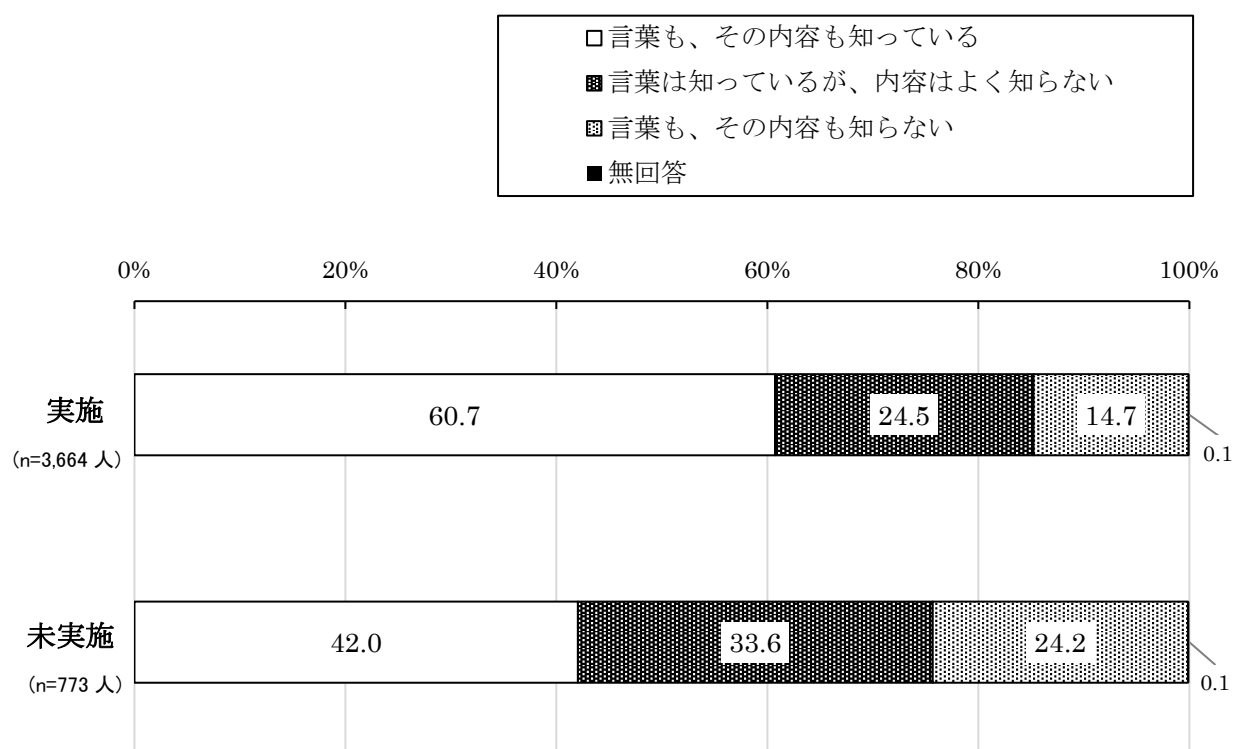
令和6年度は「実施した」(68.8%)、「実施していない」(31.3%)であった。

令和5年度は「実施した」(70.5%)、「実施していない」(29.5%)であった。(図4-1)

5 予防教育実施状況別のデートDVについての認知

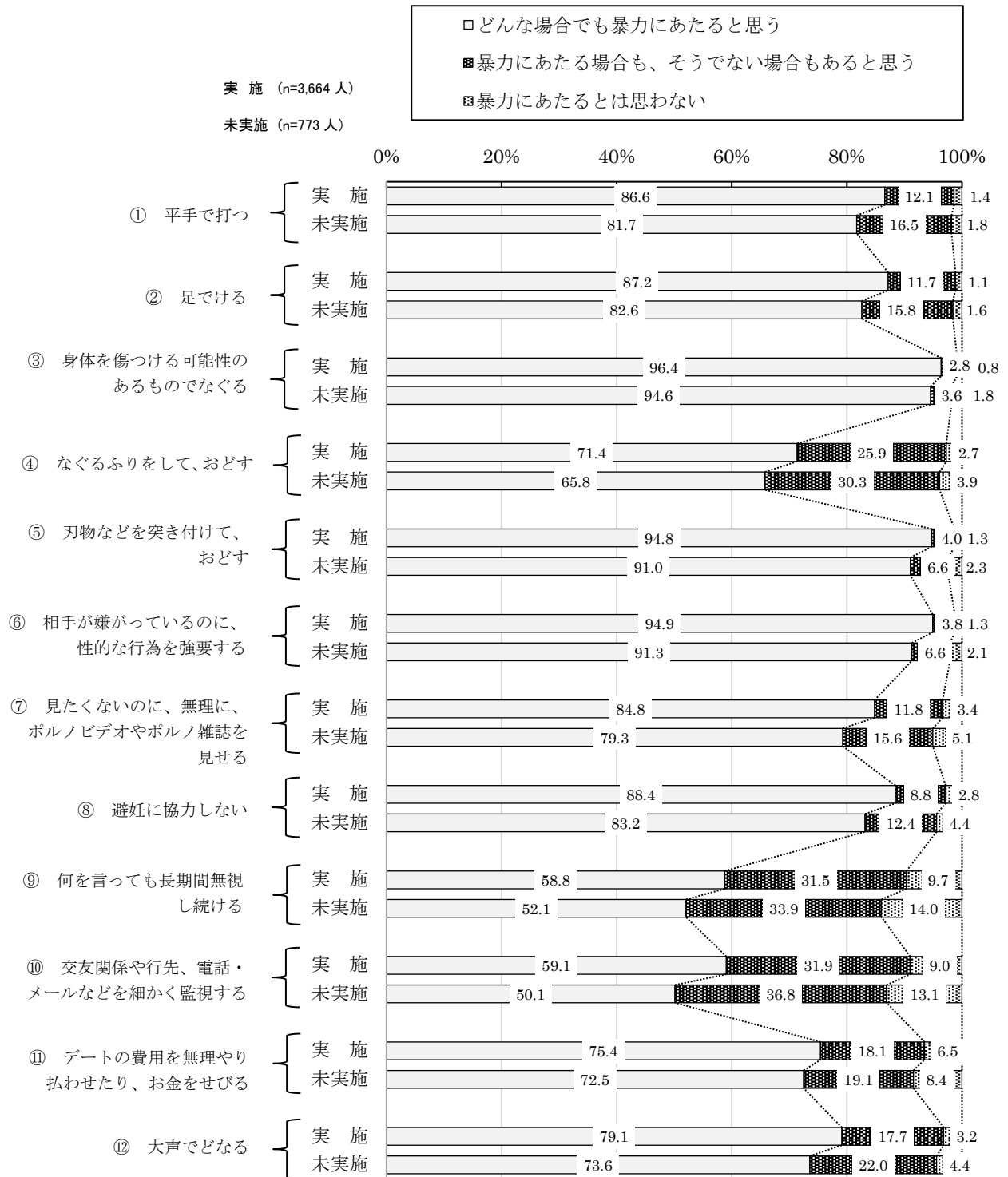
※令和6年度及び令和7年度において、1度はデートDVについての予防教育を行った学校の生徒を「実施」グループ、令和6年度及び令和7年度において、デートDVについての予防教育を行っていない学校の生徒を「未実施」グループとする。

図5-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
[デートDV予防教育実施状況別]



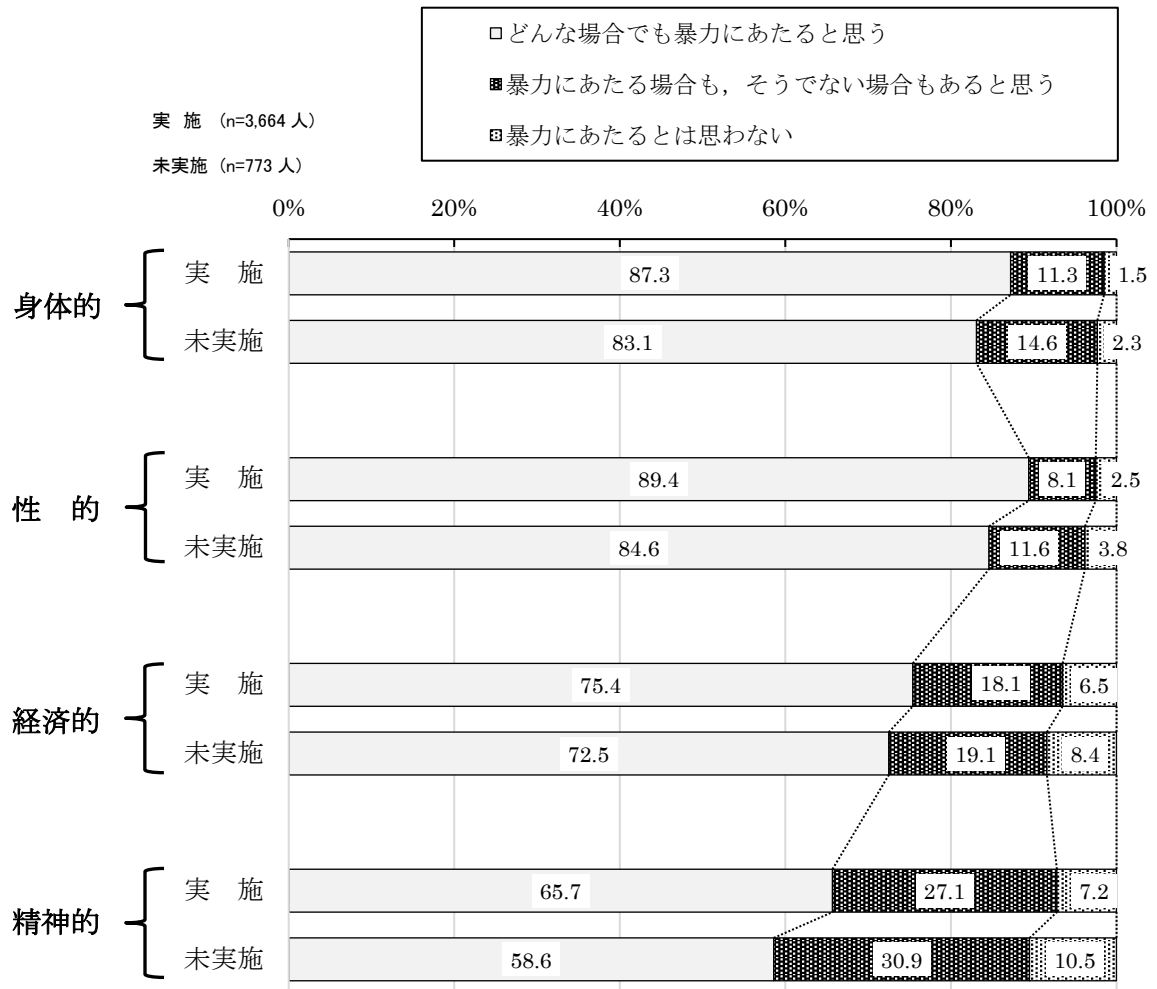
デートDVについての予防教育の実施状況別の認知度を比較すると、「言葉も、その内容も知っている」と答えたのは、予防教育を実施した学校では60.7%、未実施校では42.0%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」と答えたのは、実施校では24.5%、未実施校では33.6%であった。「言葉があることを知らなかった」と答えたのは、実施校では14.7%、未実施校では24.2%であった。(図5-1)

図5-2 交際相手からの行為について暴力としての認識
[デートDV予防教育実施状況別]



デートDVについての予防教育の実施状況別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識を見てみると、12項目中の全項目で、予防教育を実施した生徒のほうが認知度が高くなっている。(図5-2)

図5-3 交際相手からの行為について暴力としての認識
 [デートDV予防教育実施状況・分類別]

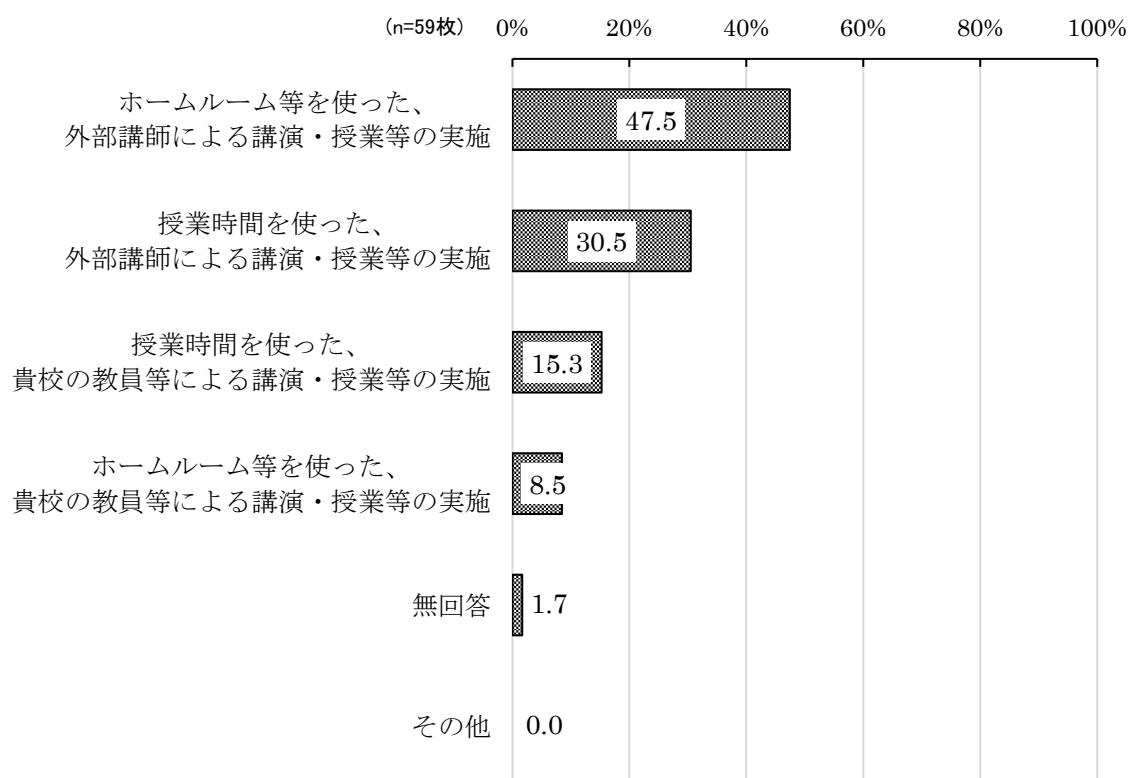


交際相手からの12項目の行為を分類し、デートDVについての予防教育の実施状況別に暴力としての認識を見てみると、12項目中の全項目で、予防教育を実施した生徒のほうが認知度が高くなっている。(図5-3)

6 デートDV予防教育の実施方法・実施内容

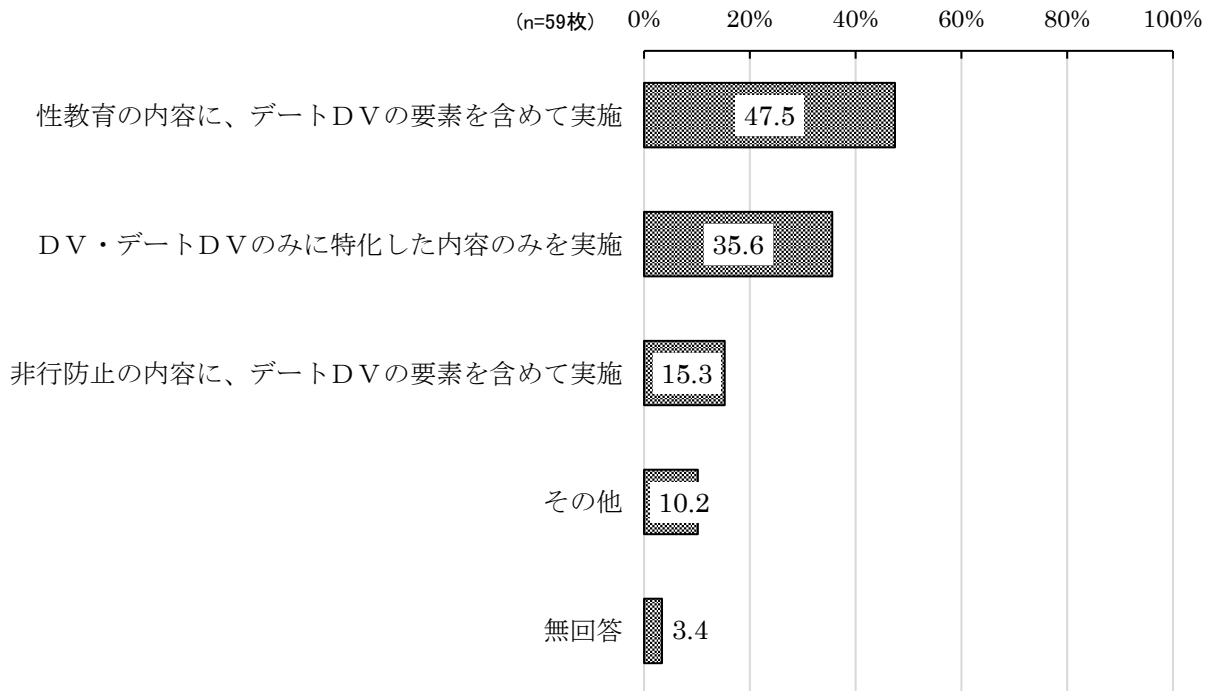
問2 問1において、いずれか1つの設問で「1 実施した」と回答した学校にお聞きします。予防講座は、どのような方法・内容で実施しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図6-1 デートDV予防教育の実施方法



デートDVの予防に関して実施している取組について聞いたところ、最も多いのは「ホームルーム等を使った、外部講師による講演・授業等の実施」(47.5%)であった。2番目に多いのは「授業時間を使った、外部講師による講演・授業等の実施」(30.5%)であった。「授業時間を使った、貴校の教員等による講演・授業等の実施」(15.3%)、「ホームルーム等を使った、貴校の教員等による講演・授業等の実施」(8.5%)と続いた。(図6-1)

図6-2 デートDV予防講座の実施内容



【その他 回答内容】

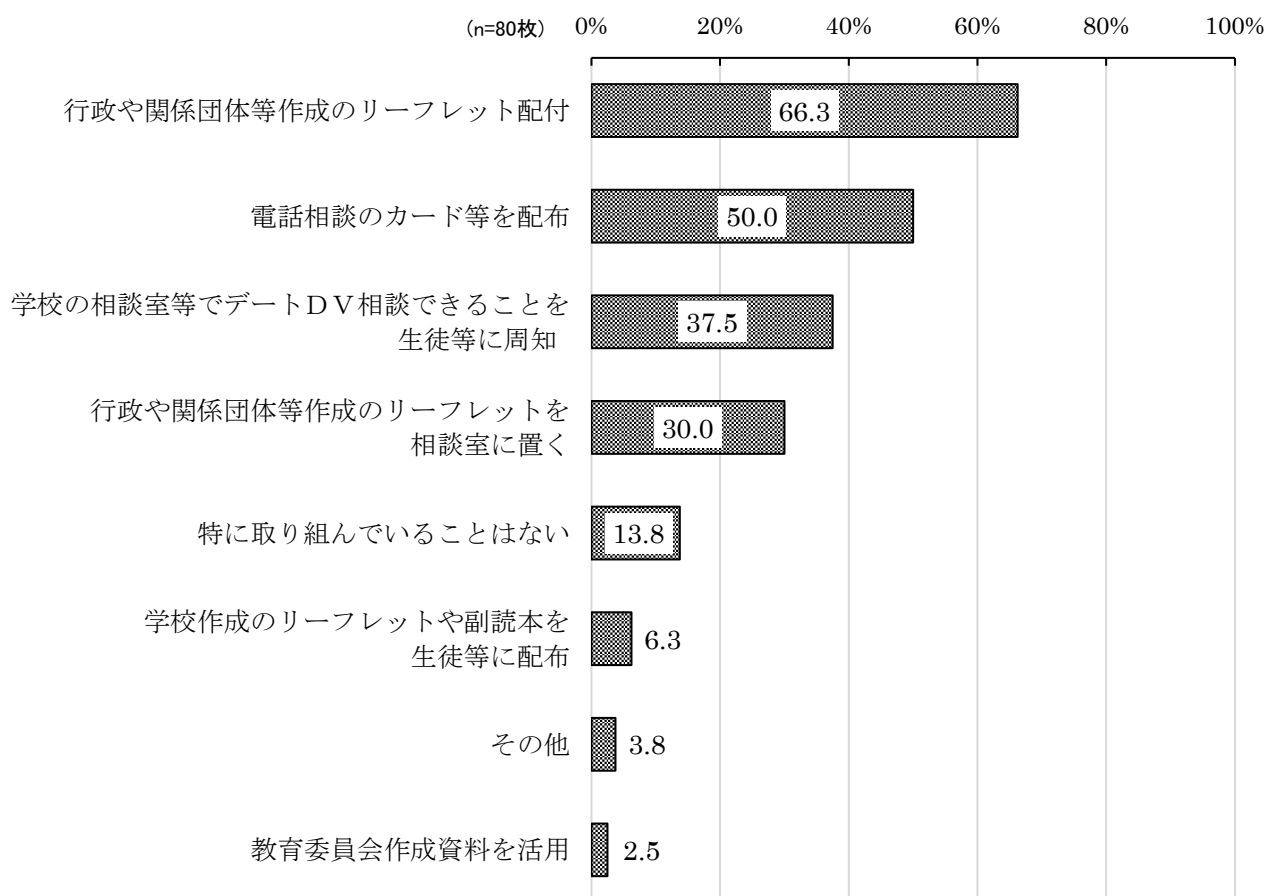
- ・交際相手だけでなく、友人等との良好な人間関係の築き方を含めて実施
- ・スクールカウンセラーによる講演会の中にデートDVの内容を含めて実施
- ・「命の安全教育」というテーマの校長講話

デートDVの予防に関して実施している取組について聞いたところ、最も多いのは「性教育の内容に、デートDVの要素を含めて実施」(47.5%)であった。2番目に多いのは「DV・デートDVのみに特化した内容のみを実施」(35.6%)であった。「非行防止の内容に、デートDVの要素を含めて実施」(15.3%)、「その他」(10.2%)と続いた。(図6-2)

7 デートDVの予防に関して実施している取組

問3 授業や講演以外に、デートDVの予防に関して実施している取組はありますか。(相談のため保健室等に入室した生徒への個別対応も含む)
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図7 デートDVの予防に関して実施している取組



【その他回答内容】

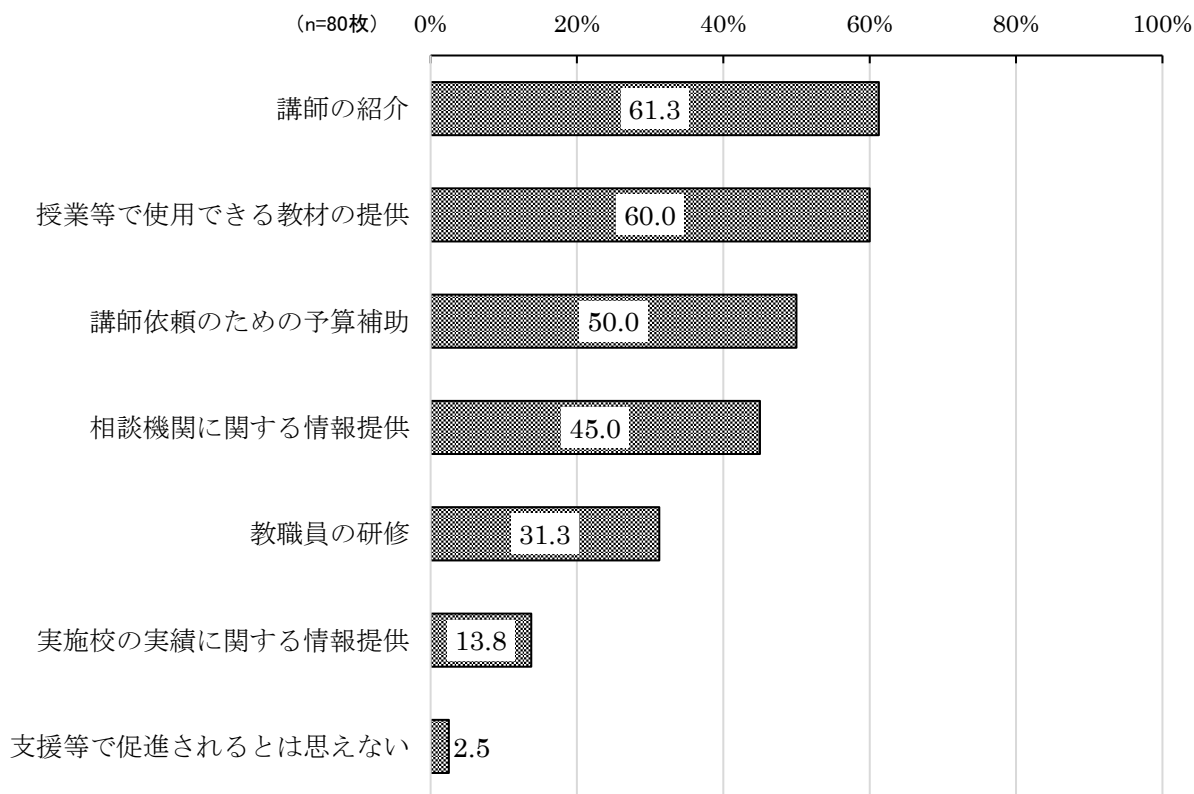
- ・デートDVに限らず、相談できる場所や連絡先を周知
- ・養護教諭やカウンセラー等による個別の相談

デートDVの予防に関して実施している取組について聞いたところ、最も多いのは「行政や関係団体等作成のリーフレット配付」(66.3%)である。2番目に多いのは「電話相談のカード等を配布」(50.0%)であった。「学校の相談室等でデートDV相談できることを生徒等に周知」(37.5%)、「行政や関係団体等作成のリーフレットを相談室に置く」(30.0%)、「特に取り組んでいることはない」(13.8%)、「学校作成のリーフレットや副読本を生徒等に配布」(6.3%)、「その他」(3.8%)、「教育委員会作成資料を活用」(2.5%)と続いた。(図7)

8 デートDV予防教育を行うために必要な支援

問4 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○をつけてください。

図8 デートDV予防教育を行うために必要な支援

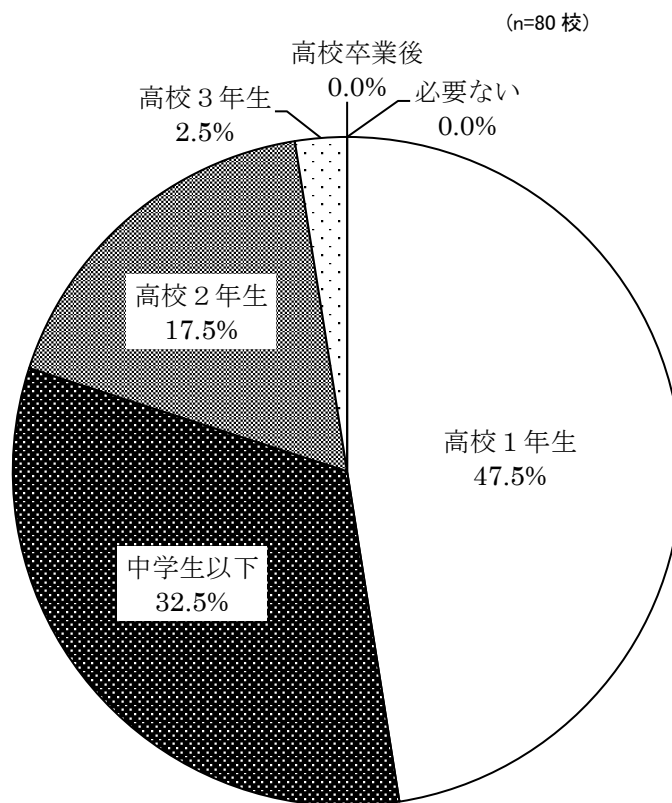


デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思うか聞いたところ、「講師の紹介」が61.3%と最も高く、「授業等で使用できる教材の提供」(60.0%)、「講師依頼のための予算補助」(50.0%)、「相談機関に関する情報提供」(45.0%)、「教職員の研修」(31.3%)、「実施校の実績に関する情報提供」(13.8%)と続いた。「支援等で促進されるとは思えない」は2.5%であった。(図8)

9 デートDV予防教育を受ける時期

問4 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思いますか。もっとも適していると思う時期に○をつけてください。

図9 デートDV予防教育を受ける時期



デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思うか聞いたところ、「高校1年生」と答えた学校が47.5%で最も多かった。2番目に多かったのは「中学生以下」(32.5%)であり、「高校2年生」(17.5%)、「高校3年生」(2.5%)と続いた。「高校卒業後」「必要ない」は0.0%であった。(図9)

Ⅲ 調査票

デートDV（交際相手からの暴力）についての意識調査

皆さんの回答は、今後の広島県の施策に活かされます。

3分程度で終わる、簡単なアンケートです。ぜひご協力ください。

（アンケート調査は匿名です。回答内容により、個人が特定されることはありません。）

問1 あなたの性別は

※答えることが難しい場合は、回答不要です。

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について、知っていますか。

1 言葉も、その内容も知っている
2 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3 言葉があることを知らなかった

問3 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。

それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んでください。

	暴力にあたる	暴力にあたる場合も、そうでない場合もある	暴力にはあたらない
①平手で打つ	1	2	3
②足でける	1	2	3
③身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	1	2	3
④なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑤刃物などを突き付けて、おどす	1	2	3
⑥相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3
⑦見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑧避妊に協力しない	1	2	3
⑨何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
⑩交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
⑪デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる	1	2	3
⑫大声でどなる	1	2	3

問 4 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

1 賛成	2 どちらとも言えない	3 反対
------	-------------	------

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

デートDV 予防教育に関する調査

学校名	
記入者職・氏名	
電話	

(学校内で回答をとりまとめ、各校1回答としてください)

問1 デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等（非行防止教室等の生徒指導に関する講演会、命の大切さや良好な人間関係などに関する講演会等、デートDVが直接的なテーマではなかった場合を含む。）を実施したことがありますか。

(1) 令和6年度の貴校のデートDV等予防講座実施状況（対象学年を問いません）

令和6年度（対象学年を問いません）	
1 実施した	2 実施していない

(2) (1)のうち、当時の高校1年生を対象としたデートDV等予防講座実施状況

令和6年度（高校1年生）	
1 実施した	2 実施していない

(3) 令和7年度のデートDV等予防講座実施状況（現在の高校2年生を対象）

令和7年度（高校2年生）		
1 実施した	2 実施する予定	3 実施予定はない

問2 問1において、いずれか1つの設問で「1 実施した」と回答した学校にお聞きします。予防講座は、どのような方法・内容で実施しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 実施方法

1 授業時間を使った、外部講師による講演・授業等の実施
2 授業時間を使った、貴校の教員等による講演・授業等の実施
3 ホームルーム等を使った、外部講師による講演・授業等の実施
4 ホームルーム等を使った、貴校の教員等による講演・授業等の実施
5 その他（具体的に _____ ）

(2) 実施内容

1 DV・デートDVのみに特化した内容のみを実施
2 非行防止の内容に、デートDVの要素を含めて実施
3 性教育の内容に、デートDVの要素を含めて実施
4 その他（具体的に _____ ）

問3 授業や講演以外に、デートDVの予防に関して実施している取組はありますか（相談のため保健室等に来室した生徒への個別対応も含む）。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	行政や関係団体等作成のリーフレット配付
2	行政や関係団体等作成のリーフレットを相談室に置く
3	学校の相談室等でデートDV相談できることを生徒等に周知
4	学校作成のリーフレットや副読本を生徒等に配布
5	電話相談のカード等を配布
6	教育委員会作成資料を活用（具体的に）
7	その他（具体的に）
8	特に取り組んでいることはない

問4 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○をつけてください。

1	講師の紹介
2	講師依頼のための予算補助
3	授業等で使用できる教材の提供
4	実施校の実績に関する情報提供
5	相談機関に関する情報提供
6	教職員の研修
7	支援等で促進されるとは思えない

問5 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思えますか。もっとも適していると思う時期に○をつけてください。

1	中学生以下
2	高校1年生
3	高校2年生
4	高校3年生
5	高校卒業後
6	必要ない

問6 その他ご意見等ありましたら、自由に記入してください。